

東浦町の環境を考える会（第1回） 会議記録

日 時	令和元年 12 月 14 日（土） 10 時から 12 時	
場 所	東浦町勤労福祉会館	
出席者	委員（敬称略）	竹内 秀代、大原 克行、田中 央、水野 太起子、野村 安雄、 小山 睦美、坂本 信博、新美 和子、三木 孝史、日高 寛子、 藤崎 功太郎、浅田 陽宣、牧 恭弘、鈴木 紀男、今江 勇、 小田 明美、吉田 臣了
	ファシリテーター	高野 雅夫（名古屋大学研究学研究所 教授）
	東浦町環境課	新美 英二 課長、竹内 美登 課長補佐、水野 恭志 主査
	地域問題研究所	春日 俊夫
会議内容の概要		
<p>（竹内課長補佐の司会により開会）</p> <p>1. 開会あいさつ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新美課長のあいさつ <p>（進行を高野教授に委任）</p> <p>2. 趣旨説明等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水野主査が資料 1 から資料 4 を説明 （設置要綱、基本計画の改定の流れ、これまでの取組、住民アンケート調査結果の概要） <p>3. 環境基本計画の主要テーマについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高野教授が資料 5 に基づいて説明 （低炭素社会、循環型社会、自然共生社会、SDG s） <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>（ポイント）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住民アンケートを見ると東浦町民の環境意識は高い。リーダーになるが 0.2%ということは住民全体で 100 人いる、イベント参加が 6.9%ということは住民全体で 3,400 人いることになり、大きな数字だ。 ・地球の二酸化炭素の濃度は上がっており、平均気温も上がっている。このままいくと海水温度も高くなり、台風が強くなる。 ・パリ協定は世界で決めた目標であり、今年度後半に温室効果ガスの排出をゼロにするということ。 ・東浦町でも、約 40 万トンの二酸化炭素の排出量をゼロにしていくということである。 ・最近話題のプラスチックごみは、地下資源の石油から作り、使い、捨てている。これは生態系に戻ることはないので、捨て方が悪いと海に入ってマイクロプラスチックになり、海や魚に溜まっていく。 ・生物資源から作ったものはきちんと捨てれば生態系に戻るが、捨て方が悪いと汚水のタンクに溜まっていく。 ・究極はプラスチックを作らない、使わないということ。何ができるのだろうか。 ・自然共生社会では里山や生物多様性が大事。森を切ってしまうと生物もいなくなってしまう。森だけではなく里山や田んぼも大事。これらもどうしていくべきかを考える必要がある。 </div>		

- ・SDGs は国連で決めた 2030 年の国際目標、17 のゴールが設定されていく、国だけではなく地方自治体や企業も取り組む必要がある。
- ・太陽光発電パネルは「エネルギーをクリーンに」に貢献するが、森を切って設置すると二酸化炭素の吸収源がなくなり、「陸の豊かさ」も守れないので、SDGs の視点で見るといいとは言えない。
- ・50 年後 100 年後の社会や地域をどうしていくか、そのための第 1 歩として今から何をするかという視点が大事である。

4. 委員の自己紹介、グループ分け

- ・委員に自己紹介カードに記入していただき、カードを掲げながら席順に自己紹介をしていただく。
※自己紹介内容は別紙参照
- ・各委員の希望を基本に、「低炭素社会」「循環型社会」「自然共生社会」の 3 つのグループに分かれる。
※各委員のグループ分けは別紙参照

(休憩)

5. 意見交換（グループワーク）

- ・3 グループに分かれて、委員どうしで意見交換。
- ・各自ふせんに記入していただき、その内容を披露しながら、模造紙に整理する。

(意見交換の内容)

- ・日頃、東浦町の環境について思うこと
- ・今日の説明を聞いて思うこと
- ・テーマについて思うこと
- ・今後、町・住民・企業として取り組むとよいと思うこと

※各グループの意見は別紙参照

※全体での発表はなし

6. 次回の説明

- ・次回も同じグループで、この模造紙を上げた状態で始めることを説明
- ・第 2 回は 1 月 12 日（日）10 時から実施